

雲仙岳の火山活動 (18)\*  
 -1996年5月~9月-

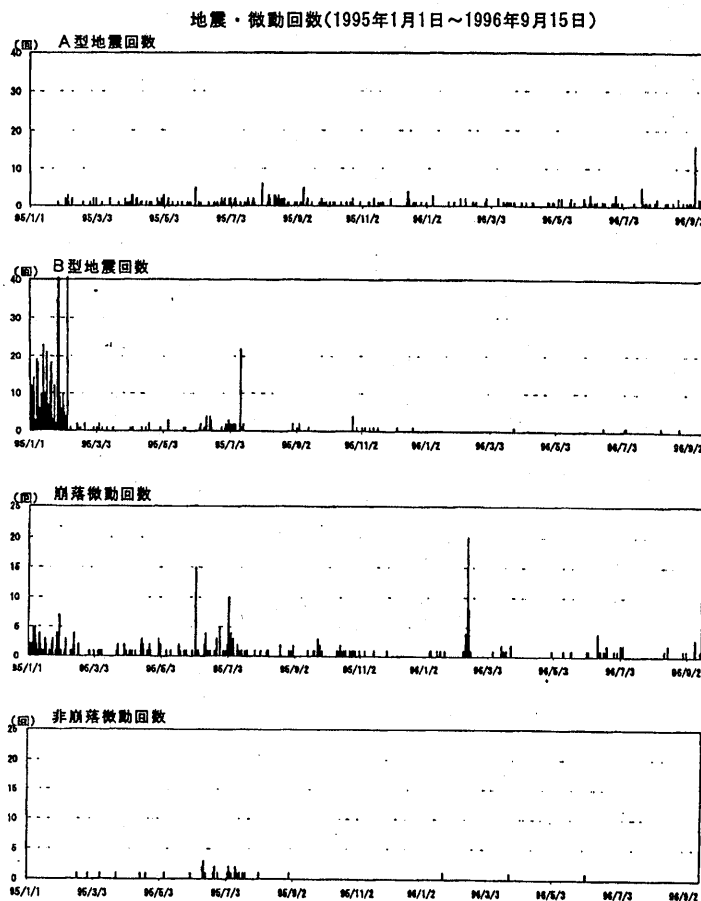
Volcanic Activity of Unzendake Volcano (18)  
 -May-September 1996-

雲仙岳測候所  
 気象庁火山課

Unzendake Weather Station, JMA  
 Volcanological Division, JMA

1. 火山活動概要

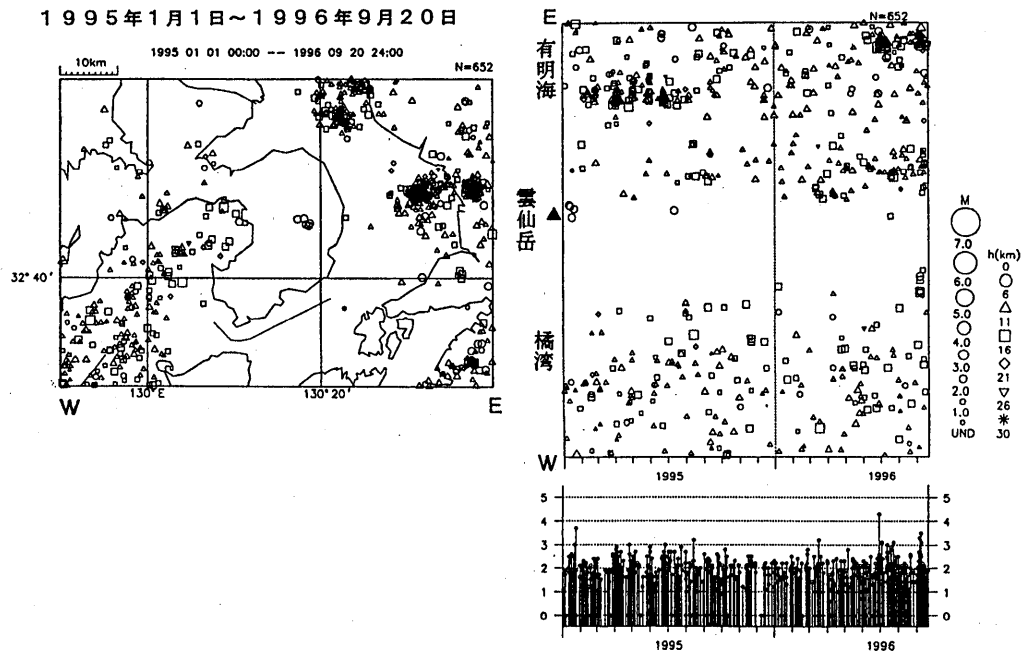
この期間も引き続き、火山性地震・微動回数は少ない状態で経過した。また、測量観測によっても溶岩ドームにほとんど変化は見られず、火山活動は全般に落ち着いた状態が続いた。



第1図 雲仙岳日別地震回数・微動回数  
 (気象庁A点地震計)  
 (1995年1月1日~1996年9月15日)  
 上図 : A型地震回数  
 2番目図 : B型地震回数  
 3番目図 : 崩落微動回数  
 最下図 : 非崩落微動回数

Fig.1 Daily frequency of earthquake and tremors recorded by station A on Unzen-dake volcano, January 1995~15 September 1996.  
 top : Daily frequency of A-type earthquakes.  
 2nd : Daily frequency of B-type earthquakes.  
 3rd : Daily frequency of rockfall tremors.  
 bottom: Daily frequency of tremors.

\*Received 26 Dec.,1996



第2図 島原半島周辺の地震活動(1995年1月1日～1996年5月15日)

Fig.2 Seismicity around Shimabara Peninsula(1 January 1995～15 September 1996)

## 2. 地震および微動

第1図に1995年1月からの地震(A型、B型)・微動(崩落・非崩落)回数を示す。1996年9月6日に橘湾で発生したM3.2の地震により測候所で震度2を記録し地震回数が一時増加した他は、A型地震の回数に特に大きな変化はない。山体直下を震源とするB型地震は、1995年3月以降は少ない状態が続いている。

崩落微動回数は1996年2月に火砕流が約1年ぶりに発生した時期を除いては、少ない状態が続いている。マグマの動きを反映していると考えられる非崩落微動は1996年に入ってから3回しか観測されていない。

第2図に島原半島周辺の震源分布図を示すが、この期間特に目立った地震活動はみられなかった。

## 3. 溶岩ドーム

雲仙岳測候所では遠望カメラ、機上観測、定点からの目視観測・写真撮影・セオドライト観測等により溶岩ドームの状況を観測している。

この期間各観測点からの稜線測量観測によると、溶岩ドームの形状にほとんど変化はなかった。